

I V Y - 0 2 - 8 - 0 1

2 0 0 2 年 8 月 2 9 日

カンボジア スパイリエン州農村女性組合設立支援事業  
2 0 0 1 年度完了報告書  
( 2 0 0 1 年 7 月 1 日 ~ 2 0 0 2 年 6 月 3 0 日 )

## 1 配分事業の総費用額等

総費用額 10,707,140 円

(内訳) 自己資金額 (総費用額-配分額) 7,132,140 円郵政省国際ボランティア貯金 配分額 3,575 千円自己資金額の割合 (自己資金額÷総費用額) 66.61%

## 2 援助事業の実施状況及び効果

## 【事業概要】

農民のホームレス化防止を目標に掲げスパイリエン州チューティールコミュニティで 1999 年よりスタートした当プロジェクトも開始から丸 3 年を迎えた。もともとスパイリエン州は土壌、水源に恵まれずカンボジア国内で最も多くのホームレスを排出している地域の一つに数えられている<sup>1</sup>。

出稼ぎ人口も多く<sup>2</sup>、その多くが男性で占められている点も大きな特徴である。結果として 1 年を通して村を、そして家庭を守るのは女性の役割となっている。しかしながら文化的、歴史的観点から女性が地域開発の表舞台に立つことはほとんどなく、組織化も計られていなかった。

この為 IVY は、地域開発の主役を担うべき女性達に焦点を当て、貧困の原因である「指導者不足」「協同組織不足」「能力開発機会不足」「食糧不足」「収入不足」という 5 つの要因を解決すべく活動を行っている。1999 年、そして 2001 年に活動を開始した 2 村に於いては「女性組合」の組織を促し、組合活動を通してこれら 5 つの貧困要因の排除を目指している。

女性組合の具体的活動内容としては、食糧自給、栄養、収入向上を目指した「家庭菜園の普及」、収入向上、肥料の自給を目指した「家畜飼育」、借金防止、貯蓄の習慣付けを目標とした「貯蓄プログラム」、最貧困家庭の収入向上を目指す「最貧困家庭支援」を主な活動の柱としている。

IVY では住民の主体的参加型の組織作りを目指しており、女性組合設立、活動の運営にあたっては女性自らが主体となる環境作りに留意している。この組織作りを更に強化するため、本年よりプロジェクトを開始した 3、4 村目においては、組織の枠組み作りから女性自身で決定できるよう、手法を変更し、村全体を組織する「女性組合」ではなく、5 名から 15 名という少人数での「女性グループ」作りを促した。現在各村 2 グループ計 4 グループが誕生し、半年後の活動を目指して貯蓄活動とメンバーミーティングを定期的に行っている。

<sup>1</sup> 「プノンペン市内の路上生活者レポート」(社会福祉省:1996 年)によると、プノンペン市の路上生活者出身地の第 4 位がスパイリエンとなっている。更にプノンペンに隣接する州を除くとスパイリエンが第 1 位となる。

<sup>2</sup> IVY の調査では、活動地であるプレイチャンボック村で全世帯の 20%、チューティール村で 23%が乾季にはプノンペン等都市部へ出稼ぎに行く。

第 1 村目であったプレイチャンボック村は本年 9 月に IVY としての活動を終了するが、今後もモニタリング等を通して、活動の効果について調査を進める予定である。また、今後は IVY の協力者として、後発の組合、女性グループのスタディーツアー見学地として利用させてもらったり、農業トレーナーとして近隣の村で共に活動してもらおう予定である。2002 年度は新たな 2 村で活動を開始する。

**【実施状況概要】**

本事業は、各村において次の 4 段階で進めている：

- 第一段階 女性組合発足のための準備期間
- 第二段階 女性組合発足
- 第三段階 プログラムの実施
- 第四段階 女性組合強化・自立運営指導

- 99 年度に活動を開始した 1 村目のプレイチャンボック村は、本年 9 月の IVY 活動終了を前に、既に第四段階に入っている。8 月には女性リーダー改選も行われ、新たな一歩を踏み出した。
- 2000 年度、IVY が新たに活動を始めた 2 村目のチューティール村は、引き続き第三段階にある。現在第四段階も視野に入ってきており、運営面の強化と更なる主体的参加を目指し活動している。

月	2 村目 チューティール村	1 村目 プレイチャンボック村
7 月	家畜購入の為の貯蓄 家庭菜園ボランティア会議 女性リーダー会議	家庭菜園ボランティア研修 家畜ボランティア会議
8 月	家畜購入の為の貯蓄 家畜ボランティア候補者ワークショップ 女性リーダー会議	家庭菜園研修報告会 女性リーダー活動評価ワークショップ 家畜ボランティア会議 女性リーダー会議
9 月	家畜購入の為の貯蓄 家庭菜園ボランティアトレーニング 女性リーダー会議	女性リーダー会議 家畜借り手との会議
10 月	家畜購入の為の貯蓄 家庭菜園ボランティアプレイチャンボック村訪問 家畜飼育トレーニング(全組合員対象) 女性リーダー会議 干ばつ緊急米支援	家庭菜園ボランティアトレーニング 女性リーダー会議 干ばつ緊急米支援
11 月	家畜購入の為の貯蓄 家畜貯蓄金返金→家畜購入 貯蓄説明会	家庭菜園トレーニング(全組合員対象) 女性リーダー会議

	家庭菜園トレーニング(全組合員対象) 家畜飼育トレーニング(全組合員対象) 女性リーダー会議	
12月	家畜購入の為に貯蓄 家畜貯蓄金返金→家畜購入 家庭菜園ボランティア会議 家畜のワクチン講座 家畜のワクチン接種 女性リーダー会議	家畜銀行の家畜返還 女性組合中間評価の為に調査 女性リーダー会議
1月	家畜購入の為に貯蓄 家畜貯蓄金返金→家畜購入 家庭菜園ボランティアトレーニング 家畜のワクチン接種 最貧困家庭支援開始 女性リーダー会議 PLA実施	家畜銀行評価 鶏銀行第2回貸し出し 家畜ボランティアによるワクチン接種 最貧困家庭支援開始 米銀行設立に向けた話し合い 女性リーダー会議 PLA実施
2月	家畜購入の為に貯蓄 家畜ボランティア会議 米銀行設立に向けた会議 最貧困家庭支援フォローアップ 女性リーダー会議	モデル豚売却 モデル家畜小屋評価 女性組合総会 米銀行設立に向けた話し合い 最貧困家庭支援フォローアップ
3月	家畜購入の為に貯蓄 貯蓄グループ会議 家庭菜園ボランティア会議 モデル豚舎、鶏舎予定地調査、話し合い 米銀行設立に向けた会議 最貧困家庭支援フォローアップ 女性リーダー会議	最貧困家庭支援フォローアップ 女性リーダー会議
4月	家畜購入の為に貯蓄 4月貯蓄金満期グループ会議 貯蓄金返金→家畜購入 家庭菜園ボランティア会議 家畜ボランティアプレイチャンボック村 訪問 最貧困家庭支援フォローアップ 女性リーダー会議	米銀行預入れ開始 最貧困家庭支援フォローアップ 女性リーダー会議
5月	家畜購入のための貯蓄 貯蓄金返金→家畜購入 家庭菜園ボランティアによるトレーニング(全組合員対象)	家畜銀行会議 第2回モデル豚飼育開始 家畜ボランティア会議 最貧困家庭支援フォローアップ

	家畜のワクチン接種 女性組合総会 最貧困家庭支援中間評価	女性リーダー会議
6月	家畜購入の為の貯蓄 豚貯蓄メンバーワークショップ 家庭菜園ボランティアプレイチャンボック村訪問 栄養講座(家庭菜園ボランティア対象) 家畜のワクチン接種 最貧困家庭支援フォローアップ 女性リーダー会議	家畜ボランティア会議 最貧困家庭支援中間評価 女性リーダー対象ワークショップ 女性リーダー会議

- 2001年度より活動を開始した3、4村目、サムラオン村、プーンコー村ではより住民主体の参加型プロジェクトを目指し、女性組合ではなく、より密度の高い女性グループによる組織形態に変更した。

	3村目 サムラオン村	4村目 プーンコー村
1月	基礎調査開始	基礎調査開始
2月	基礎調査、分析	基礎調査、分析
3月	全女性対象ワークショップ 全女性対象PLA	全女性対象ワークショップ 全女性対象PLA
4月	全女性対象ワークショップ	全女性対象ワークショップ
5月		2グループ結成
6月	1グループ結成	女性グループミーティング 貯蓄開始

**【活動実施内容詳細】**

＜2村目 チューティール村女性組合：2000年7月開始＞

2000年7月に本格的活動を開始したチューティール村女性組合も開始から2年を迎え組合の組織化が計られている。第1回総会で活動が承認された家庭菜園、家畜飼育事業の活動の他、家畜購入を目的としたグループ貯蓄、最貧困家庭支援も新たに開始された。

● 家畜購入の為の貯蓄

2001年5月、6月に開始された家畜購入の為のグループ貯蓄であるが、毎月1度の積み立て

を継続してきた。11月には第2期グループが募集され、合計31名（鶏貯蓄25名、豚貯蓄6名）の女性が新たなグループを結成している。

2002年8月現在、既に12グループ、62名が家畜購入を果たしている。内訳は鶏31名、豚31名となっている。（11月に満期を迎えた豚貯蓄グループの中には購入する家畜を鶏に変更した女性も1名いた。）昨年秋の早魃時には、貯蓄を続けられないと言った女性もあったが、グループメンバー、及び女性リーダーの助けを借り、第1期貯蓄グループメンバーは全員無事貯蓄を終了させる事が出来た。第2期貯蓄グループも既に15名が鶏貯蓄を終了しており、2002年11月には鶏貯蓄を行っている10名と豚貯蓄を行っている6名がそれぞれ貯蓄を終了し、全メンバーが家畜を手にする事になる。

貯蓄金と組合からの助成金で購入した家畜にはワクチン接種を義務付けており、村の他の家畜に比べて病気になりやすく順調に育っている。しかし5月に購入された17頭の豚のうち4頭は購入後1ヶ月足らずで死亡している。これは、豚の購入時期が重なった為、適当な子豚を見つけれなかったからではないかと推測され、「貯蓄が満期を迎えてから1週間以内で豚を購入する」という規則について見直しを検討されている。また、家畜の選び方、基礎的飼育法の確認を行う小トレーニングを徹底することとなった。

#### 第1期貯蓄グループ（2001年5月、6月～）

コース	鶏貯蓄		豚貯蓄	
	グループ、人数	満期時	グループ、人数	満期時
7ヶ月 12ヶ月	3グループ（15名）	11月、12月（終了）	1グループ（5名*） 5グループ（27名）	11月（終了） 4月、5月（終了）

\* 5名中1名が貯蓄終了後鶏飼育に転向。

#### 第2期貯蓄グループ（2001年12月～）

コース	鶏貯蓄		豚貯蓄	
	グループ、人数	満期時	グループ、人数	満期時
7ヶ月 12ヶ月	3グループ（15名） 2グループ（10名）	5月（終了） 11月（貯蓄中）	1グループ（6名）	11月（貯蓄中）

#### ●貯蓄グループ会議

貯蓄グループのメンバーは、毎月1日にグループリーダーの家へ貯蓄金を持参し、リーダーは集めたお金を女性組合リーダーへ預けに行く事となっている。ところが、この規則が徹底されず、メンバー個人が女性組合リーダーへ貯蓄金を持っていったり、預入れが遅れたりするケースが多々発生した。このため、女性組合リーダーが貯蓄メンバーを集め、これらの規則を含めた貯蓄プログラムの規約の確認を3月6日に行った。このミーティング以後、同様のケースは報告されていない。

また、5月に満期となった貯蓄金で購入された子豚が4頭立て続けに死亡した問題を受け、6月

5日には豚貯蓄メンバーを集めてワークショップが開催された。このワークショップでは、子豚を死なせた買い主4名を4つのグループに振り分けて、その飼育法の問題点についてグループディスカッションをおこなった。ディスカッションを通して問題点を女性達の中から引き出そうと試みたものである。この4名以外にもこれまで子豚を死なせた事のある女性はたくさんおり、それぞれの経験を交換しながら話し合いを進めていた。

### ● 女性リーダー会議

定例会議として定着している女性リーダーの月例会議は女性組合総会開催の為に翌月に延期された5月を除き、毎月月末に開催された。各事業報告、女性組合の会計報告、翌月の予定確認を除いた会議の主な内容は以下の通りである。

- ・ 7月 女性組合の規約確認  
情報伝達の仕組みについて
- ・ 8月 家畜ボランティアの選抜
- ・ 9月 干ばつ状況の報告
- ・ 10月 最貧困家庭支援について  
家畜ボランティア再選抜
- ・ 11月 家畜ワクチン実施方法  
最貧困家庭選抜
- ・ 12月 米銀行設立について  
女性リーダー資質向上  
最貧困支援
- ・ 1月 家庭菜園ボランティアリーダー再選  
女性リーダー構造について
- ・ 2月 女性リーダー資質向上
- ・ 3月 プレイチャンボック村家畜視察について
- ・ 4月 第二回家畜ワクチン実施について
- ・ 6月 第二回家畜ワクチン実施について

10月からは会議のドラフト作成も女性リーダー自ら手がけるようになり、現在ではIVYスタッフの助けを借りずに会議の内容決定、進行を行える迄になっている。

また、10月2日には月例会議とは別に村長を交えて干ばつ対策の緊急支援に付いての話し合いを持った。この中では干ばつの現状、支援内容についてIVYスタッフと意見を交換した。

### ● 家庭菜園ボランティア会議

当初20名でスタートした家庭菜園ボランティアであったが、昨年7月26日に開かれた会議においてその役割、責任について確認されると同時に13名が正式にボランティアとなった。その後は13名が村における家庭菜園普及員として活躍する事になっていたが、IVY主催のトレーニングには熱心に参加するが普及活動に対しては意欲を見せない女性達の姿も目に付いた。この為、3月14日に再び家庭菜園ボランティアの役割、責任を確認するミーティングを開催し、7月に女性達自ら提案

した家庭菜園ボランティアの役割、責任に対する自己評価を行った。ここで明らかになったことは、自主的に普及活動を行っているものの、「あなたのような貧しい人に教えてもらう事はない」とアドバイスに耳を貸そうとしない住民もあり、次第に普及活動を躊躇するようになった女性が多かったと言う事だった。今後 IVY スタッフではなく家庭菜園ボランティアが住民へのトレーニングを行う計画を立てていたため、家庭菜園ボランティアを「トレーニングを行い積極的に普及を図る普及員」と「訪ねてきた住民にアドバイスを与える在宅普及型普及員」の2種に分ける事とし、トレーニングを行う5名の普及員が選出された。

4月24日に行われた会議では5月に行う全組合員対象のトレーニング準備と言う事で堆肥作り方や緑肥の重要性について話し合いが持たれた。

### ●家庭菜園ボランティアトレーニング、研修

9月19日、家庭菜園ボランティアを対象に IVY 野菜指導員による第二回目のトレーニングが行われた。前回のトレーニングの復習、雨季に適した野菜作り指導、実践トレーニングを主な内容とし、最後に種の配布が行われた。1月18日には種取り方法、及びきゅうりとヘチマの作り方のトレーニングが、家庭菜園ボランティア、女性リーダー合わせて11名の参加者を集めて行われた。更に6月20日には、15名の家庭菜園ボランティアが参加して、第2回目の栄養講座が開催された。前回の復習に続き、栄養素の説明、欠乏するとどのような症状を引き起こすかが IVY フィールドスタッフ、野菜スタッフより説明された。最後には栄養バランスの取れた食事の試食会を行い、参加者全員に栄養価の高い塩が配布された。

また、1村目であるプレイチャンボック村の家庭菜園ボランティアとの交流も盛んに行われている。10月12日にはチューティール村から16名の家庭菜園ボランティア、女性リーダーが参加してプレイチャンボック村での研修が行われた。プレイチャンボック村からは8名のボランティア、リーダーが参加し、参加者全員でプレイチャンボック村の家庭菜園ボランティア宅を訪問した。プレイチャンボック村のボランティアからは「害虫の防ぎ方」「液肥、堆肥の作り方」「水路の掘り方」「支柱の作り方」「家畜の餌となる野菜」について説明があり、活発な質疑応答がなされた。更に6月11日には5名の家庭菜園普及員が再びプレイチャンボック村を訪れ、土壌改良、堆肥作り、野菜作りなどより具体的な家庭菜園技術について視察、質疑応答を行った。

### ●家庭菜園トレーニング

11月13日、干ばつ対策の一環として全組合員対象の家庭菜園トレーニングが開催された。新たな収入源、食糧源の家庭菜園に大きな注目が集まっていた為か106名が参加した。トレーニングは、参加者が大人数の為、午前、午後と2グループに分けて行われた。家庭菜園の意義などについて話し合いが持たれた後、IVY 野菜スタッフより空芯菜、黒キャベツ、サツマイモの作り方の説明があった。最後には全参加者に空芯菜と黒キャベツの種、サツマイモの苗が配られた。このトレーニングの参加希望者は、事前に土を起こしてフェンスを作ることを義務付けていた為、トレーニング後は配布された種、苗が瞬く間に村中に植えられた。

5月17日には家庭菜園普及ボランティアによる第1回目の家庭菜園トレーニングが全組合員を対象に開かれた。こちらも89名という大人数だった為、11月同様午前、午後と2回に分けてトレーニングを行った。まず11月に行ったトレーニングの復習、配布された種がどうなったか、などを質問した後、豆、十角へちま、かぼちゃの植え方について普及員によって説明がなされた。「人前で話すのは初めてなので緊張した」という普及員もいたが、中には冗談を交えながら堂々と話す女性もいた。11月には第2回目のトレーニングが開催される予定となっている。

### ● 家畜ボランティア

8月16日に村の家畜飼育技術の普及印となる家畜ボランティアに名乗りを挙げた12名の女性を対象にワークショップが開催された。このワークショップは村の家畜飼育の現状、問題点について話し合い、家畜基礎飼育や治療についての意見交換や家畜ボランティアの役割について確認を行うものだった。当初この12名の中から5、6名を選抜する予定だったが、将来村を離れる女性や普及員として働かなくなる女性もいるのでは、と言う懸念から10名のボランティアでスタートする事となった。2月12日には家畜ボランティアの規約について話し合う会議が開かれ、10名のボランティアがその役割、責任について確認した。また、4月10日に、ボランティア達はプレイチャンボック村を訪れ、プレイチャンボック村のモデル豚舎、鶏舎を見学したり、プレイチャンボック村家畜ボランティアと意見を交換したりしていた。

干ばつやコミュン選挙の影響で開始が遅れていた家畜ボランティアトレーニングも、田植えが一段落する9月ようやくスタートする事が決定し、現在ボランティア達はその準備に追われている。

### ● 家畜飼育トレーニング

10月19日に行われた全組合員を対象とした豚の飼育方法についての基礎トレーニングは42名の参加者を集めた。参加者達の飼育に関する経験が交換された後、獣医の資格を持つIVYスタッフより餌や衛生などの基礎知識から一般的な病気とその予防、薬草治療、ワクチンの重要性などについての説明があった。続いて11月7日には、今度は鶏の基礎飼育法についてのトレーニングが51名の参加者を集めて行われた。このトレーニングでは、まず前回の豚飼育のトレーニングを復習した後、鶏の飼育に関する経験の交換、基礎飼育法、病気についての説明があった。どちらのトレーニングも、参加者達は興味深げに耳を傾けていた。

### ● 家畜ワクチン

女性組合によるワクチン接種を前に、12月13日、女性組合員を対象にワクチンに関するワークショップが開かれた。このワークショップではまず10月、11月に行われた豚と鶏の基礎飼育トレーニングが復習され、家畜の病気、ワクチンの効能について獣医の資格を持つIVYスタッフより説明があった。その後、女性リーダーよりワクチン接種の値段、方法についての連絡を行った。

それを受けて12月、1月には鶏、豚を対象に第1回目のワクチン接種が獣医の資格を持つIVYスタッフによって実施された。ワクチン接種を受けたのは鶏126羽、雛103羽、豚14頭となっている。家畜のワクチン接種は通常半年に1度となっているため、5月、6月には2度目のワクチン接種が行われ、鶏66羽、雛53羽、豚30頭がワクチンを受けた。ワクチン接種する家畜が豚を除いて減少している理由に、ワクチンの効能について村人達が理解し切れていない事が考えられる。ワクチンは1種類につき1つの病気にしか効果がないこと、ワクチンを受けたからと言って病気にかからないわけではない事などを理解してもらう事はなかなか難しいようである。それでも、ワクチンを接種した家畜はしていないものより病気にかかりにくいと言う事が、僅かずつでも定着しつつあるので、今後は更に理解を深めてもらえるよう家畜ボランティアとともに努力したい。

### ● 干ばつ対策

2001年は「これまで経験したことがない」と村人たちが口を揃える大干ばつに見まわれた。平均でも例年の20%程度の米収穫、貧困家庭が所有するような痩せた土地では全く収穫がないという状態だった。この事態を鑑み、IVYでは、村長、女性組合と協力しチューティール村のあるチューティ



ールコミュニケーション全 12 村に一世帯 5 0kg の緊急米支援を行った。

同時に、この干ばつで最も打撃を受けた最貧困家庭の特別支援を IVY より提案し、女性リーダー内で対象家庭の選抜、支援方法について話し合いを重ねた。この結果 1 月 9 日に、選抜された 9 家族を集めて支援の説明会が開かれた。支援内容は 3 種類に分けられる。1 つ目が収入向上活動資金として 30,000 リエル（約 7.5 ドル）を無利子で 1 年間貸し出すもので、5 家族が対象となった。2 つ目がお年寄りや障害のある 3 家族に行う鶏の貸し付け。3 つ目が重度の精神障害を持つ女性に行うお米の支援である。資金不足からなかなか新たな収入向上活動を行えず、貧困から抜け出せない家庭が多いが、このローン金を手にした 5 家族は、マット作り、鍛冶屋、野菜売りなど思い思いの活動を開始した。鶏の飼育を含む全ての活動は、女性リーダー達がフォローアップを行い、毎月 IVY にレポートを提出している。5 月 1 5 日に行われた中間評価には支援を受けている全家庭が参加し、支援によって何が変わったか、どのような悩みを抱えているか、などについて話し合った。なお、ローンを借りた全家族が、既に借入れ金の半額にあたる 15,000 リエルの返済を終えている。1 2 月には残額 15,000 リエル、及び貸し出された鶏の返却が行われる。

### ● PLA

1 月 2 3 日には、女性リーダーを集めて PLA（参加型学習と行動）が催された。この PLA は村の抱える問題を炙り出そう、と言う試みで、村の地図、村の歴史がツールとして用いられた。村の地図作成では、地図など見た事もない女性達から戸惑いも見られたが、中心を通る道路を書き始めると、あとは次々と地図を書き加えて行った。村の中で治安の悪い場所があること、学校が遠い事、などが問題として挙げられた。

また、村の歴史的事項を挙げてもらう「村の歴史」では、2 グループでゲーム形式にした為、参加者達は活発に発言していた。また、若い女性達は年配の女性達が挙げる歴史的事項に興味深げに聞いていた。

### ● 米銀行

2 0 0 1 年の干ばつで米不足になり、チューティール村でも借金借米をする家庭が増えている。通常、借米は 1 0 0 %、あるいはそれ以上の利子をつけて返済しなければならず、1 度米を借ると非常に苦しい生活に陥ることとなる。そこで女性組合の中から「女性組合の米銀行を作りたい」という希望が出てきた。貧困家庭の救済の為に薄利で貸し出せる米銀行を作ろう、というものである。月例会議などで検討を重ね、2 月 6 日には、女性リーダーで米銀行設立に向けた特別会議が開かれた。また、3 月 1 8 日には組合員を集めて会議が開かれた。この会議の中で、米銀行会員となるために 1 タウ（約 1 2 キロ）の米を預ける事、竹など米倉建設の資材を寄附する事などが確認された。2 0 0 2 年は干ばつ直後であり、米を出資できる家庭も少なく、また準備期間も短すぎる、と言う事で、米銀行開設は、収穫が終わる来年 1 月以降とされている。この為、来年開設に向け、現在も米倉建設準備、米銀行規約作りなどが進められている。

### ● 女性組合総会

5 月 29 日には女性リーダー司会進行の下、60 名の組合員が参加して第二回女性組合総会が開催された。1 年間の女性組合活動の報告を行った後、次年度に開始する新プログラムの承認がなされた。女性リーダーの間では新プログラムとして「米銀行」または「家畜銀行」の 2 候補を挙げていたが、出席者の多数決でまずは米銀行から開始される事が決定された。また、総会の最後には、女性組合の活動資金源にと日本から寄付された古着が販売された。

総会準備に関しては、プログラム作成や古着の値段付け、細かい準備も IVY フィールドスタッフの僅かな助けを除いては、女性リーダーだけでこなしていた。当日は、60 名という大人数を前に話をするという事で女性リーダー達は「非常に緊張した」という感想をもらっていたが、無事に総会が終了したことで、かなり自信をつけたようである。話し方や司会進行などまだまだ拙いことも多く、その為出席者達が集中し切れない時もあり、改善点は多く見受けられるが、総会は概ね成功したと言えるだろう。

#### <1 村目 プレイチャンボック村女性組合： 99 年 7 月開始>

活動 3 年目を向かえた 1 村目、プレイチャンボック村では、IVY としての活動終了を前に、プログラムの継続、自立を促してきた。具体的には、女性リーダー、家庭菜園ボランティア、家畜ボランティアなど今後村における活動を支えていく女性達の組織運営力、連携強化を目指した。

#### ●家庭菜園ボランティア研修、報告会

7 月 20 日、プレイチャンボック村家庭菜園ボランティア 13 名と 2 名の女性リーダー、村長が CRS(Catholic Relief Services) の活動地を見学した。CRS は、スバイリエンで持続的複合農業普及を中心とした幅広い活動を行っている。研修では訪問した 3 軒の農家に、近所の農民も加わり、活発な意見交換がなされた。また、野菜の育て方、土壌改良、緑肥、液肥、自然農薬、複合農業について新しい知識を学んだ。これまで村の外へ出る機会、村外の人々と意見交換する機会の無かった女性達は、新しい知識、アイデアに刺激を受けたく、さっそく自分の家庭菜園でも実行できることから取り入れたい、と意欲を見せた。

この研修の報告会が 8 月 2 日に行われ、70 名以上の一般組合員が参加した。研修中に撮影されたビデオの上映会もあり、参加者からは多くの質問が寄せられた。

#### ●家庭菜園ボランティアトレーニング

10 月 18 日には家庭菜園ボランティア、及び女性リーダー 15 名を集めて家庭菜園ボランティアトレーニングが開催された。このトレーニングは主に土壌改良の知識普及を目的としたもので、家庭菜園、田圃の土が現在どのようなものであるか、これまでどうやって土壌改良を行っていたかについて経験を交換した後、3 グループに分かれてそれぞれ 1.固形肥料、2.液肥、3.緑肥、の作り方、用途などについてディスカッションを行った。固形肥料、液肥については女性達自身が編出した独自の作り方が紹介されるなど、かなりの知識があるわかったが、同時に誤った情報を持っている女性も多かった。また、対照的に緑肥についての知識のある女性はほとんどおらず、IVY 野菜スタッフがいくつかのポイントを確認した後、最後には緑肥作りの体験学習が行われた。

#### ●家畜ボランティア会議

2000 年 11 月より 2001 年 5 月まで行われたトレーニングで養成された 6 名の家畜ボランティアを集め、7 月 25 日、8 月 15 日と会議が開かれた。これは村における家畜の病気と問題点、ワクチン接種の効果などについて情報交換と話し合いの場を提供するものであり、政府によりトレーニングを受けた村の獣医も参加した。

7 月の会議では、簡単な治療を行うための体温計、メス、はさみ、注射針、薬などの要請がボランティアから出された。これを受け IVY スタッフ内で検討を重ねた結果これらの道具を支給する事に決定し、

獣医の資格をもつ IVY 家畜指導員が村内での実践トレーニングを通じて使用方法を指導した。

家畜ボランティアたちはその後も村人にアドバイスを与えたり簡単な治療を行ったりしてきたが、家畜飼育の基礎知識普及という面においてまだまだ努力できるのではないかと、という意見がスタッフ内から上がった。このため 5 月 31 日に家畜ボランティアの会議を開き、村での治療、普及活動の問題点、家畜ボランティアの役割について再確認を行った。

### ● 家畜ボランティアによるワクチン接種

11 月、12 月には女性組合運営で、第 4 回目のワクチン接種が行われた。豚は、5 頭がペスト、8 頭がパステルローズのワクチンを受け、鶏は、成鶏 56 羽がコレラ、34 羽がニューカッスル M、雛は 198 羽がニューカッスル F、34 羽がフォウルポックスのワクチン接種を受けた。

特に豚についてワクチン接種を受ける頭数が少なかったのは、過去 3 回のワクチン接種に於いてその効果を実証しにくかったという理由が考えられる。豚の飼育は鶏と比較して難しく、購入した子豚が先天性の病気を持っている事も多い。また、村では十分な餌を与えられない事などから、大きく育たなかったり、飼育途中に死んでしまったりするケースも見受けられる。このため、良い子豚の選び方、基礎的飼育方法の確認、ワクチンの効用など再度確認する必要があると思われる。プレイチャンボック村に於ける IVY の活動は本年 9 月で終了するが、家畜飼育ボランティアに関しては追加トレーニングを行い、これらの事項を更に村人達に浸透させる事ができるよう指導する予定である。

### ● 女性リーダー活動評価ワークショップ

IVY は一村につき 3 年間の活動を予定しているが、組合発足から 1 年半と折り返し点を迎えたプレイチャンボック村で、8 月 9 日、5 人の女性リーダーを集めて女性組合の活動評価のためのワークショップが開催された。このワークショップでは組合活動開始以来、村の女性達の中で起こった気持ち、能力、収入、人間関係などの変化を「組合活動前」と「現在」の比較表にして考えたり、組合活動に抱いていた最初の期待の達成度を点数で表したり、更にリーダーとしての責任感や能力について自己評価をしてもらった。

このワークショップを通して、女性達が家庭菜園や家畜飼育など技術的な能力向上以上に、精神的にエンパワメントされていることが明らかになった。しかし同時に「まだ IVY の助けが必要だ」という声も聞かれ、女性リーダーの自立に向け IVY としても更に努力していかなければならないという課題も浮き彫りになった。

### ● 女性リーダー会議

活動評価ワークショップを受け、8 月 30 日には女性リーダー会議が開催された。会議では今後の組合事業、組織の具体的方向性について話し合われた。話し合いをスムーズに進めるため、女性リーダー、家庭菜園プログラム、家畜プログラムに於ける問題点を挙げ、それぞれの解決策を「組合で解決できる事」「IVY の助けが必要な事」に分けて考えた。この中で、女性リーダーは月例会議を毎月開催する事、家庭菜園ボランティア、家畜ボランティアとの連携を強めていく事を決定し、IVY が会計、企画に対するトレーニングを強化する事を要請した。家庭菜園では、家庭菜園ボランティアによる技術普及強化と共に、IVY スタッフによるトレーニングの必要性を訴えた。また、家畜飼育についても家畜ボランティアによる技術普及やトレーニング提供、餌の自給を目指すと共に、家畜ボランティアに対する追加トレーニングの必要性も強調した。

女性リーダー定例会議開催の決定を受け 9 月からは女性組合総会の開かれた 2 月以外は毎月月末に

月例会議を開く事となった。この定例会議は、横の連携を強めるために毎月家庭菜園ボランティア、及び家畜ボランティアリーダーが参加している。9月からの定例会議内容は以下のとおりである。

各月のプログラムごとの報告、翌月の予定の話し合いを除く女性リーダー会議の主な内容は以下の通りである。

9月	家畜銀行評価、第三回家畜ワクチン接種
10月	最貧困家庭支援について
11月	米銀行開設の話し合い
12月	最貧困家庭支援について
1月	米銀行規約、米倉について
3月	女性リーダー責任についての確認
4月	雨季に於ける家庭菜園奨励
5月	道路沿い植樹について
6月	種グループについて

定例会議初開催当初は、議題、会議のプログラム作りなど IVY に頼る事も多かったが、徐々に自分達の手で会議を開催できるようになり、現在 IVY はオブザーバーとしての出席に留まって来ている。

### ●家畜銀行

2001 年一月中旬から貸し出しを始めた家畜銀行は、IVY の支援で購入した家畜を、女性組合の運営する家畜銀行で貸し出し、豚は売上金の半額、鶏は貸し出しを受けた鶏の 2 倍の重量を組合に返却する、というもので豚 20 頭、鶏 100 羽の貸し出しからスタートした。ところが購入直後に、3 頭の子豚が先天性疾患と思われる病気で死んでしまった。しかしそれ以降はワクチン接種や飼育方法に関するトレーニングの開催などにより順調に育っていた。

9 月 27 日、女性リーダーにより家畜の借り手が集められ、会議が開かれた。その際、家畜返却ルールの確認、問題点を話し合った。しかし、特に豚に関しては、餌不足、基礎的飼育方法の知識不足により大きく育たないケースが目立ち、当初の概算を大幅に下回る収益となった。一方鶏は比較的順調に育ち、1 家族を除く全ての借り手が 1 月までに無事返済を終える事ができた。この 1 家族は借りた鶏が死亡してしまっただけで返却できないと言ってきたが、最終的には返却予定から 3 ヶ月遅れで元本のみを返却することとなった。豚銀行の運営が難しい事がわかったため女性組合は 1 月に行われた第二回目貸し出しでは豚銀行を中止し、鶏銀行のみ継続することとした。貸し出し家族数は、第一回の 38 家族から第二回には 52 家族に増えた。

1 月 15 日には第一回家畜銀行を評価するワークショップが開催された。このワークショップでは貸し出した家畜の返却についての報告と今後の運営方針、また、第一回目鶏銀行での利益(288,400 リエル=約 70 ドル)が報告された。この利益は今後の女性組合活動資金とされ、鶏銀行、及びその他のプログラム運営に使われている。

比較的 success を収めた鶏銀行であったが、2 点ほど問題点が指摘された。1 つ目は返却された鶏の重量が数日中に 10%程度減少する事、2 点目が売却時の鶏の値段がキロ当たり 800 リエル(約 0.2 ドル)程度購入時の物を下回ったことである。前者の原因は、鶏の借り手が返却前餌を多く与えるなどして重量を増やしている事が考えられる。また後者は、女性リーダーの経験不足から購入、販売に適し

た時期を選ばなかったことが原因であろう。どちらも今後対策を立てる必要があり、第一回目の経験を次回に生かしていくものと思われる。

また、5月17日には第2回家畜銀行の中間評価が行われ、組合から鶏を借りている36名のメンバーが集まった。5月の時点でこれといった大きな問題は見受けられず、どの女性も順調に雛、鶏の数とも増やしているようである。第二回目の家畜銀行鶏返却は12月に行われる予定である。

### ● 干ばつ対策

チューティール村同様プレイチャンボック村でも2001年は大干ばつに見舞われた。そこで10月には1世帯50kgの米を緊急支援する事となった。

また、干ばつ対策の一環としてチューティール村と同じく最貧困支援プログラムを女性組合に提案したところ、こちらは全11世帯が最貧困家庭として選抜され、8家族が30,000リエル(約7.5ドル)のローン、3世帯が鶏の貸し出し(うち2世帯は同時進行で米の無償援助)をそれぞれ1年間の期限で受けることとなった。1月3日にはローン金、鶏の貸し出しが行われ、11家族全員が参加した。この際、支援の一部としてクロマー(カンボジア独自の織物。スカーフ、タオルなどの役割を果たす)、水飲みポウルが無償で配布された。ローン金を借りた女性達は、そのお金でお菓子作り、マット作りなど小さな収入向上活動を開始する足がかりを作った。

6月21日に行われた最貧困家庭支援会議では最貧困家庭が現在抱える問題点、支援による生活の変化を話し合った。問題点としてはお菓子作り、マット作りの材料が見つからない、以前ほど売れなくなったといったことが挙げられ、これに対して女性リーダーがアドバイスを与えた。また、生活の変化としては「借金の必要がなくなった」「以前よりきちんと食べられるようになった」「貯蓄ができるようになった」という意見が挙げられた。しかし、現実的にはプレイチャンボック村での最貧困支援は必ずしも成功していないようである。

収入向上活動、鶏飼育のフォローアップは女性リーダーが行い、毎月IVYにレポートを提出していた。そのレポートによればローンを借りたどの家庭も半年目の6月には借金の半額を女性組合に返済する事ができるだろう、ということだったが、実際8家族中3家族は、8月になっても返済金を全く、あるいは一部返済できずにいる。返済できない原因として、1.ローンで借りたお金を借金返済に充ててしまったため、活動を行う十分な資金がなくなってしまった、2.病気にかかり活動を行うはずの資金を薬代に使ってしまった、ということが考えられる。また、女性リーダーのレポートと現実が違ったことについては、フォローアップが十分に行われておらず、リーダー自身も現状を把握していなかったのではないかとも思われる。更に、7月に入ってから1家族の鶏が全て盗まれてしまったと報告が入った。しかし実際はこの女性が出稼ぎに出る前に鶏を全て売ってしまったという情報もあるため、女性リーダー達が対処法を検討中である。

### ● 家庭菜園トレーニング

11月16日には干ばつ対策の一環として家庭菜園トレーニングが行われた。午前、午後と2度開かれたトレーニングには合わせて78名の組合員が参加した。トレーニングでは家庭菜園の重要性、基礎知識について復習した後、当日種を配布する事になっていたトラクーン、サツマイモ、黒キャベツの育て方について家庭菜園ボランティアより説明があった。サツマイモはポルポト時代以降村で栽培されなくなっただけでなく、トラクーンと共に、栽培方法を知っている女性も多かった。また、黒キャベツの種取りについての説明もあったが、種取りの経験の無い女性や、黒キャベツ自体を育てた事の無い女性も多くおり、きちんと種を取れるかどうか心配する人も数多くいた。実際、キャベツ

の種取りは難しかったらしく、成功した人は極僅かだった。チューティール村同様、家庭菜園の土おこし、フェンス作りをトレーニング参加の条件としたため、トレーニング後は多くの家庭でこれら3つの野菜を見かけるようになった。

### ● 女性組合中間評価

12月11、12日の2日間、女性組合に関する全戸調査がプレイチャンボック村124世帯で行われた。家庭菜園、家畜飼育の開始、拡大という物理的変化以上に目を引いたのは女性達の精神的変化、あるいは家庭での地位向上である。

例えば女性組合の活動を開始してから「以前より幸せになった」と答えた女性は調査を行った組合員117名の97.4%に及んだ。その理由の一つとして96.6%の女性が「他の女性達と共に活動を楽しめた」と話している。また、90%以上の女性が村の女性との関係に変化があったと答え、65%もの女性が「以前より助け合えるようになった」という回答を寄せた。更に、家庭内でもそれぞれ70%前後の女性が「以前より家族と話をするようになった(68.4%)」「お互いに助け合うようになった(70.9%)」「家族が自分を尊敬してくれるようになった(72.6%)」と話している。(資料1参照)

この調査の結果を見ていると、プレイチャンボック村の女性達の多くが女性組合活動に興味を示し、ある一定の技術を習得すると同時に、家庭内、村内での人間関係を大きく発展させていったことが伺える。交流を広げていく事により「周囲の人々の事を考えられるようになった」女性も37.6%に上り、コミュニティとしての発展がある一定の成果をあげつつあると考えられる。

### ● 米銀行

「干ばつで最も深刻な被害を受けている最貧困層を支援できるような米銀行を作りたい」という意見が女性リーダーの中から出始めたのは11月のことである。当初は「米銀行を作りたいのでI V Yで75%の米と米倉の建設資金を援助して欲しい」という要望が出された。しかし、持続性という側面から、米銀行に関して一切支援しないポリシーをスタッフ内で決定しそれを繰り返し伝えてきた。また、4トンもの米を資本とする米銀行開設の考えを改め、自分達の能力、資金力にあった小さな米銀行からスタートするように、というアドバイスを繰り返した。

女性リーダー、一般組合員で話し合いを重ねた結果、村人から竹ややしの葉など米倉建築資材を寄付してもらったり、家畜銀行で得た資金を投資したりして米倉が建設された。また、干ばつ直後の米不足にもかかわらず、米銀行会員41家族中13家族が「困っている家庭を助けるため」と今年は米の預入れのみを行うこととした。女性組合購入分を合わせて1551キロの米は、最も食糧が不足する8月の田植え時(2002年は雨不足のため例年より1ヶ月田植えが遅れた)に貸し出された。米を借りた家族は28世帯で、うち27世帯が55kg、1世帯が27.5kgを借り入れた。

これまでグループ貯蓄で購入した豚まで「I V Yの豚」と称される事が多かったが、今回の米銀行に関しては「女性組合の米銀行」という意識を強く持っている。8月21日に行われた米の貸し出しの際にも「組合の米」という言葉が村人から自然に飛び出し、I V Yの助けを借りずに設立した米銀行に対する自信と誇りが伺えた。今年も干ばつを予感させる天候が続いており、米銀行への返済も心配されるが、このプログラムが成功しても失敗しても、女性達にとっては大きな自信と経験につながると確信している。

### ● PLA

1月22日、女性リーダーを集めてPLA（参加型学習と行動）が催され、村の地図、豊かさランキングを行った。村の地図作成時には、村の中で鶏が頻繁になくなる場所があることが指摘された。豊かさランキングは、家族の人数、労働力、家の種類、耕作地の広さ、耕作牛の有無など豊かさの指標となるものを女性達の中からあげてもらい各項目に該当するかどうかを点数化し、最後に誰が豊かなのか、誰が貧困で困っているのかを視覚化するツールである。村内の各家庭について点数化していたが、リーダーは自分達が比較的豊かである事、相互扶助の必要性を再確認していた。

### ● モデル鶏、モデル豚

2001年4月より飼育を開始したコンクリート式豚舎、韓国式豚舎（おが屑と土を混ぜた床）のモデル豚各1頭は、9ヶ月の飼育の後、1月に販売された。これを受け、2月7日にはモデル豚舎、鶏舎評価が行われた。子豚代、餌代、ワクチン、治療費を差し引いた純利益は、1頭につき10ドル強となった。異なる種類の豚舎で飼育された豚の成長差は、硬い床で育てられたコンクリート式豚舎の豚より、やわらかい床で穴を掘ったり運動のできる韓国式豚舎の豚のほうがストレスが無いためか元気がよく、肉の締まりも良くなった。

また、鶏舎のうち1舎は、鶏代、餌代、ワクチン代を除いた10ヶ月の利益がマイナス1ドル弱となり、もう1舎はプラス15ドル強となった。このように同じタイプのモデル鶏舎で利益に差がついたのは、基礎飼育の違いが原因と考えられる。前者のオーナーは鶏舎の掃除をあまり行わず、定時の餌やりなどIVYからのアドバイスも聞き入れようとしなかった。対照的に後者のオーナーは、こまめに鶏舎を掃除し、一定時間に餌やりをして、と鶏舎をしっかりと管理した。この違いが利益の差となって表れたのではないかと思われる。

今後のモデル活動であるが、コンクリート式豚舎のオーナーは、餌不足から、今回でモデル契約を終了することとなった。韓国式豚舎のオーナーからは、今度は2頭の豚を一度に飼育してみたいという希望が上がった為、5月から2頭の豚を飼育している。ところが1頭が先天性疾患で生育が悪かったため7月末に売却し、現在は1頭のみ飼育となっている。鶏舎に関してはもともと18ヶ月の契約だったため、少なくとも2002年10月まではモデルを続ける事になっている。

### ● 女性組合総会

2月21日には、干ばつ被害やコミュン選挙のため延期されていた女性組合総会が開かれ、93名の組合員が参加した。また、招待されたチューティール村の女性リーダー2名、そして同じチューティールコミュンの村から見学希望者が三人見学した。

総会では一年間の女性組合活動の報告があり、新規事業としての米銀行開設、女性リーダーに対する手当て支払いの議案が可決された。また、9月で支援を終了するIVYのプーンコー村に対するポリシーが確認され、最後には組合活動の資金作りのためにと、日本から寄付された古着の販売を行った。

組合総会もこれが第3回目ということで、女性リーダーにも落ち着きと余裕が見られた。IVYフィールドスタッフが僅かにアドバイスする以外はプログラム作りから会場準備、進行まで全て女性達の方で行った。プログラムは随所にクイズやゲームを取り入れるなど、楽しい雰囲気を出し、また、にこやかなリーダー達の話に、参加した組合員達もリラックスしたムードで総会を楽しんでいたようだ。

### ● 女性リーダー対象ワークショップ

8月の女性リーダー改選を前に、6月13日、女性リーダー、及び次期リーダー候補者を集めて

ワークショップを開いた。1 日ばかりで行われたワークショップでは、女性リーダーの役割を確認した後、女性組合を持続的活動にするためにはどうすればよいかのグループディスカッションが行われた。午後には「良いリーダー」の定義について 3 グループに分かれて話し合ってもらい、現組合規約の見直し、及び次期選挙について話し合いが持たれた。

規約について、現在 5 名定員のリーダー数を、7 人に増やす事が決定された。これは、プログラム数の増加に伴い、各女性リーダーの負担が増大している事への対応策で、これによって一人のリーダーに対する仕事分担が軽減できると思われる。また、選挙が 8 月に行われることがこの場で決定した。

### <3、4 村目：女性グループ 02 年 1 月開始>

当初 3 村目としてチューティール地区ニアレテン村での活動を予定していたが、地区長より区内でも特に貧困層の多いプーンコー村、及びサムラオン村で先に IVY の活動を開始してほしいという要請があった。これを受け、調査、検討の結果、地区長の要請どおりプーンコー村、サムラオン村で同時に IVY の活動を開始する事となった。2 村一度に開始した理由としては、どちらの村も貧困状態にあり、早急に活動を開始したかった事、村長同士の仲がよく同時に開始すればより一層の協力を得られると考えた事、IVY も経験を蓄積してきており、同時に 2 村開始しても支障ないと判断した事、などがあげられる。

また、スタッフ内で話し合った結果、3、4 村目では、村単位の女性組合ではなく、より持続性が高いと思われる、相互扶助女性小グループを希望者のみに作ってもらうこととした。具体的には、5 名から 15 名程度のグループを興味のある女性で構成してもらい、それぞれのグループで最低 6 ヶ月間貯蓄を継続する。その資金を元手に家畜飼育、家庭菜園などグループごとに決定した活動を行ってもらう予定である。IVY からは 6 ヶ月間貯蓄を継続したグループに学習と交流の機会を提供する。同時に、貯蓄開始から 6 ヶ月経過した時期を見計らって、家庭菜園ボランティア、家畜ボランティアを募る予定にしている。

1、2 月に行った基礎調査、調査結果分析を踏まえ、3 月には両村で全女性対象ワークショップ、PLA を開催した。

プーンコー村			サムラオン村		
日時	場所	内容	日時	場所	内容
3/15	1	ワークショップ 1	3/12	1	ワークショップ 1
3/25 ~27	1	PLA(地図, 歴史, プロブレムランキング, 季節カレンダー-村の夢)	3/19 ~21	1	PLA(地図, 歴史, プロブレムランキング, 季節カレンダー, 村の夢)
4/22	1	ワークショップ 2-1	4/3	1	ワークショップ 2
4/23	1	ワークショップ 2-2	4/4	2	ワークショップ 2
5/7	1	ワークショップ 3	4/22	1	ワークショップ 3
			5/8	2	ワークショップ 3
			5/14	2	ワークショップ 3

※ サムラオン村で開催された PLA では、プーンサンと呼ばれる村内でも特に貧しい地域の女性の参加率が低かった。このためワークショップ 2 からはプーンサン地区でもワークショップを開く事となった。「場所 2」は、そのプーンサン地区を指す。



## ● ワークショップ 1

ワークショップ 1 では、スタッフ紹介、山形県の説明、これまでの IVY の活動と今後の活動の違いの説明を行った。プーンコー村では 68 名、サムラオン村では 83 名の参加者があり、IVY の活動に対する女性達の期待の高さと興味の深さを感じられた。山形の紹介では、数人の女性に前に来てもらい、山形の写真を見ながら、それが何であるか想像しながら説明してもらった。それまで人前で話す機会がほとんど無かった女性達だが、臆せず堂々と発表していた。ワークショップの最後には PLA の日程を伝え、時間のある人の参加を呼びかけた。

## ● PLA

3 日間に渡った PLA では「村の地図」「村の歴史」「プロブレムランキング」「季節カレンダー」「村の夢」をツールとして用いた。

村の地図を作成するに当たって、様々な発見があった。例えば、サムラオン村にプーンサン地区と呼ばれる最貧困エリアがあること、狭い村の中にも洪水に見舞われる場所と雨が降りにくい場所があることなどである。

村の歴史では、サムラオンの村人のほうがプーンコーの村人より概して先に住み始めたことがわかった。両村とも貧しいものの、比較するとサムラオン村のほうが少し豊かな理由は、先に移住してきた人々が少しでも条件の良い土地を確保したからではないかと思われる。

プロブレムランキングでは村の問題として、活動資金不足、井戸不足、食べ物不足、家畜の病気などが挙げられた。そこでその解決策について話し合ってもらおうと、最初は「IVY が助けてくれる」と繰り返していた女性たちからも「皆で知恵を出し合う、協力する」という言葉が聞かれるようになり、実際「種が無いので家庭菜園を始められない」と話す女性に「私の種をあげるわよ」と答える女性も出てきた。

季節カレンダーは食べ物、お金、家畜、米作りなどの項目を女性たちに挙げてもらい、1 月から 12 月まで、どのような変化が起こるかという絵を描いてもらう。出稼ぎにいける乾季は現金があるが、米作りに忙しい雨季はお金が全くなること、人間も家畜も病気にかかりやすい時期があることなどがわかった。全てを絵で表してもらうため時間もかかるが、これまで絵を描くチャンスなどほとんど無かった女性たちは大騒ぎしながら楽しそうに参加していた。

また、理想の村を描いてもらった「村の夢」で女性達が描いたのは、家、井戸、テレビ、家庭菜園、など少し努力すれば手に入りそうなものがほとんどだった。この頃になると女性達も随分と積極的になってきており、あれもこれも、と時間を忘れて絵を描いているようだった。

3 日間の PLA の感想を参加者達に求めると、口を揃えて「楽しかった」と答えていた。また、「IVY が何かを教えてくれると思って来たが、IVY は何も教えてくれなかった。その代わりに、自分であれこれ考える事ができた。」と話す女性もおり、それぞれが何かを感じてくれた PLA だったのではないかと思われる。

## ● ワークショップ 2

貯蓄後の活動選びの参考にと 2 度目のワークショップではまず「総当りランキング」をおこなった。これは、マット作り、家庭菜園など収入向上のために思いつく活動を挙げてもらい、女性達が考えた、良いアクティビティーの条件(家でできる、収入が良い、資金がかからない、など)にひとつずつ当てはめてゆくツールである。その後、それぞれのアクティビティーを、一人でできるアクティビティーとグループで行ったほうが良いアクティビティーに分けてもらった。収入向上のために村でできる活

動はいくつか考えられるが、それぞれどのようなメリット、デメリットがあるか、一人で行ったほうが効率が良いのか、それともグループのほうが良いのか、各自整理ができたのではないかと思う。

予定では 2 度目のワークショップでグループ作りの説明を行うことになっていたが、女性相互扶助小グループの意義をもう少し知ってもらうために、3 度目のワークショップを開催する事に決まった。

### ● ワークショップ 3

3 度目のワークショップは主に女性グループへの IVY の関わり方の説明、具体的なグループ登録方法の決定、で構成された。この 3 度目のワークショップをもって、女性グループ作りのための IVY からの働きかけはひとつの区切りを迎えた。今後、再度 IVY から何らかのアクションを起こすかは村の女性達の様子、グループ結成の状況を見ながら決定していくことになる。

### ● グループ作りの現状

2002 年 8 月現在、女性グループはプーンコー村、サムラオン村とも 2 グループずつ構成されている。貯蓄額、貯蓄後の活動予定は以下のとおりである。

	プーンコー村①	プーンコー村②	サムラオン村① (プーンサン地区)	サムラオン村②
メンバー数	10 名	10 名	10 名	11 名
貯蓄開始月	6 月	6 月	8 月	8 月
貯蓄金	毎月 1,000 リエル (約 0.25 ドル)	毎週 700 リエル (約 0.18 ドル)	毎月 1,000 リエル	毎月 1,000 リエル
活動予定	豚飼育	豚飼育	未定	共有の豚購入→個人の豚購入→米銀行開始

グループにはそれぞれ読み書きのできるグループリーダーがおりリーダーが貯蓄金を管理している。それぞれのグループは毎月会議を開いており、その中でグループの名前、規約、貯蓄後の活動内容などを話し合っている。希望するメンバーに貯蓄金の貸し出しを認めているグループも多く、「お金を借りられたので、種籾を買い、田植えする事ができた」と話す女性もあった。

更に新しいグループができそうな気配もあり、今後 IVY としてどのように対応していくか、状況を見極めながら判断していきたい。

### 【援助事業の効果】

女性達が元気になってきていることが何より歓迎すべき点である。特に一昨年、昨年に IVY が活動を開始した 1 村目、2 村目ではその様子が顕著である。トレーニングを通しての知識や技術取得は、村の女性達に自信を与えているようだ。また、特に女性リーダーやボランティアは、人前で話をし、村のために働いているという誇りで、ますます自信をつけている。

個人的レベルだけではなく、村の活性化という面においても女性組合活動は効果を発揮している。これまで挨拶も交わさなかった村の他の女性ともトレーニングなどを通じて交流が生まれ、挨拶や情報交換をするようになった。そうなるまでこれまで気にも留めなかった貧困層の村人にも目を配るようになり、なんとか助けたいとまで考えるようになる。このように自分とその家族だけで精一杯だった村の女性達が、周囲の世界、様子に目を向けるようになり広い視野を持つようになった。その分困った人を助けたいという気持ちが生まれ、村内の相互扶助が活発になってきている。相互扶助の力が強まることにより、収入不足や食糧不足といった、特に貧困層が中心となる諸問題を村内で解決できる力を身につけてきている。

## <2 村目：チューティール村>

2 村目チューティール村では、女性リーダー達が、既にかなり独立して活動を行えるようになってきている。会議やトレーニングの一部など、自分達が主体的に動かなければならないことも多く、その分自信にもつながっているようである。また、最貧困家庭支援においては、非常に積極的にフォローアップを行っておりリーダーとしての責任感と、貧困層の村人達を助けたいという気持ちが伝わってくる。

1 月に開始された最貧困プログラムでは、9 名が支援を受けている。特にローン金を借りた女性達は、貯蓄ができるようになったり、借金をしなくて良くなったなど生活状況が改善されたと話している。このプログラムはローン金と貸し出された鶏の返却が行われる 12 月以降も継続していく予定で、僅かずつではあるが、貧困の減少につながっていくのではないかと期待している。

家庭菜園ボランティアはトレーニングを行う普及員 5 名が選ばれ、既にトレーニングされる側からトレーニングする側に回っている。人に教える為にはまず自分が内容をよく理解していなければならず、準備段階から皆非常に真剣に話し合いを行い、トレーニング内容の確認をしている。トレーニングを行うことが学習への良い刺激になっているようだ。トレーニング後は「大勢の前で話をするのでとても緊張した」と話していたが、無事トレーニングを終えた事で、更に自信を深めたようである。

貯蓄プログラムは、昨年度 47 名、本年度 31 名が参加しているが、昨年 10 月の干ばつ時には「今月は貯蓄できない」というメンバーもあった。それでもなんとか話し合いを重ねて貯蓄を続けられた意義は大きい。また、5 月に貯蓄を終了した鶏貯金グループには、最貧困支援を受けている女性が二名おり、誇らしげに貯蓄金を受け取っていた。このように、貯蓄する事が難しいと考えられていた女性が無事貯蓄を終了できたことは本人にとっては大きな自信となり、他の女性にとっても励みとなるだろう。また、貯蓄の習慣付けと共に家畜飼育のきっかけ作りを目的としたこのプログラムでは、参加者に対して家畜飼育法についてのトレーニングやミーティングを重ねた。それが功を奏したのか、2002 年 7 月に行った家畜飼育に関する調査では、村の女性の家畜飼育に対する知識レベルがかなり高いことがわかった。

女性組合の活動に懐疑的な住民もいたが、組合活動が軌道に乗り、それぞれのプログラムが浸透して来るに従って、徐々に参加者も増えてきている。第二期貯蓄メンバーのように、模様眺めをしていた女性も組合活動への参加を開始しており、今後更に新たな参加者が増えるのではないかとと思われる。

### <1 村目：プレイチャンボック村>

1 村目プレイチャンボック村では、9 月末の IVY 支援終了を前に更なる結束を目指して足場固めを行っている。最貧困層を助けたい、という思いから開始された米銀行も、IVY の助けを借りずに着々と準備を進め、2002 年 8 月には遂に貸し出しの日を迎えた。企画から運営まで全て自力で行ってきたこのプログラムは、女性リーダーにとって大きな誇りとなっており、IVY の活動が終了した後も女性組合を運営していける自信を深めた事だろう。何かと IVY を頼りにする事が多かったプレイチャンボック村の女性リーダー達だが、米銀行設立を境に随分と自立したように思われる。

8 月 1 日には女性リーダーの改選選挙が行われ、現女性リーダー 4 名、新リーダー 3 名が選ばれた。現リーダーが立候補したということは、彼女達がリーダーとしての仕事に何らかの意味や価値を見出したということである。また、新リーダーが立候補したということは、一般組合員として女性リーダーの仕事が魅力的に感じられた、ということである。同時に、4 名の女性がリーダーに留まった事で、女性組合としての活動が今後スムーズに行われると共に、新リーダー達が新たなる風を吹き込んでくれると期待できる。

家庭菜園、家畜ボランティアについては、知識と技術を確実に身に付けていること、また、その活動をなんとか継続しようと考えているようである。例えば、家畜ボランティアは 5 月より月例会議を開く事になり、村の家畜の現状や問題点を話し合うことにしている。また、家庭菜園ボランティアは、村の家庭菜園を継続、普及させるために「種グループ」を結成し、村人が採った種を一箇所にまとめて販売する予定である。

家畜銀行は第 2 回より鶏銀行のみの運営となったが、結果的にはリスクの多い豚ではなくより確実な鶏を村に普及させるという面で、功を奏しているかもしれない。第 2 回鶏銀行の中間評価でも、特に問題は見当たらず、前回同様ほぼ全員が無事に返済する事ができるのではないかと思われる。鶏銀行は村人の収入向上に一役買うと同時に、女性組合の運営費も稼ぎ出す事ができるため、女性組合の継続に大きく貢献できるだろう。

最貧困支援については、まだまだ課題が残されているものの、中には収入向上活動で利益をあげている女性もいる。来年以降も最貧困支援は継続される予定であるので、今後、フォローアップなどを充実させて、貧困減少に貢献していけるだろう。

その他一般組合員は相変わらず組合活動に積極的である。例えば 2 月に行われた組合総会は 93 名という非常に高い参加率を誇り、更に 8 月の選挙は 118 名の女性が投票に訪れた。これは、女性組合活動を自分達のものとして受け止めている表れであり、今後もこうした組合員に支えられ、女性組合活動が継続されていくものと期待される。

また、組合員一人一人に相互扶助の精神が根付きつつあるようである。米銀行設立に見られるリーダーの変化については先ほど述べたとおりであるが、リーダーのみならず他の村人達の変化もその中に見て取れる。例えば、米倉建設のために竹ややしの葉などを寄付したり、貧しい人のために米を貸す側に回ったり、組合活動に積極的に参加している事、相互扶助の意識が高まりつつある事がわか

る。

#### 【今後の課題】

一村目のプレイチャンボック村は 2002 年 9 月で IVY の活動開始から丸三年となる。IVY スバイリエン事業は一村 3 年間の活動を期限としている事、また、プレイチャンボック村女性組合が既に十分自立しており、今後自力で運営していける見込みである事から、IVY は原則としてフォローアップのみを行うことになる。チューティール村女性組合も既にかなり自立しているが、2003 年の IVY 支援終了を前に、更に基盤固めを行いたいと考えている。また、3、4 村目となるプーンコー村、サムラオン村は 11 月より女性グループが本格的活動を開始するのに伴い、家庭菜園プログラム、家畜プログラムも開始する予定である。

#### < 2 村目：チューティール村 >

チューティール村の女性リーダーは組合活動に非常に熱心で、IVY のお膳立てなしでもプログラムのフォローアップにまわったり、新しい活動に対するアイデアを出して来る。一方で、「新しいアイデア」といっても、プレイチャンボック村の二番煎じになっていることが多い。例えば家畜購入の貯蓄も、米銀行も、また家畜銀行も、女性達が「やりたい」と言ってくるプログラムはプレイチャンボック村で行っているものばかりであり、それならば当然 IVY が支援してくれると考えているようだ。プログラムだけでなく、最貧困支援も女性組合総会の内容も、プレイチャンボック村のものと酷似していた。これは、プレイチャンボック村との交流が盛んなため、プレイチャンボック村女性組合が行っている活動の情報が逐一耳に入っているからであり、先輩格のプレイチャンボック村が実行している事は全て自分のやるべきことだと考えているからだろう。実際、前例のある活動は IVY としてもノウハウを得ており、プレイチャンボック村での反省を活かしてより良い活動にする事もできるのだが、このまま独自性の無い活動を行っていくのではないかと心配である。村には村の特徴があるので、それを生かしていかにチューティール村に適した活動のアイデアを女性達から引き出せるかが大きな課題である。

また、チューティール村の女性組合活動への参加者が、プレイチャンボック村に比べて少ない事も気にかかる。もともとチューティール村は、女性組合活動に懐疑的な女性が多く、リーダーと一部の女性達は非常に熱心だが、逆にそれ以外の女性達の参加が少ない。その分、トレーニングなどの受益が一部の女性に集中してしまうことも問題である。とはいえ活動開始から時間が経過するに連れ、徐々に近づいてくる女性も増えており、今後こういった女性達をできるだけ多く巻き込んでいきたい。

#### < 3、4 村目：プーンコー村、サムラオン村 >

6 月に貯蓄活動をスタートしたばかりの両村は、まだ IVY の方針を十分理解しているとはいえない。具体的には、グループを作った女性の中にも盛んに「IVY が助けてくれる」という言葉を繰り返す女性がいったり「とりあえず貯蓄さえしていれば何か良い事があるだろう」と考えている女性がいったりする。IVY は 3、4 村目では、プレイチャンボック村やチューティール村のように貯蓄に補助金を出したり、家畜銀行などの資本金を出したりしない方針にしており、その方針は繰り返し女性達に伝えられているが、「NGO＝何かをくれたり何かをしてくれる人々」という考えが根強くあり、その先入観を覆すにはまだまだ時間がかかりそうだ。

逆に I V Y が何もくれない事がわかり、既に活動に興味を失っている女性もある。特に貯蓄をしなくてもすぐに活動を開始できるような富裕層の女性に多く、中にはグループを作った女性達をばかにしている人もいる。これは相互扶助どころか村内に確執を作りかねない事態であり、慎重に対応していかなければならない。特に、6ヶ月間貯蓄を行ったグループの活動が開始される頃には家庭菜園ボランティアの選出などもあり、全ての女性の理解を得られるような方策を取らなければならない。特にグループ以外の女性の様子をよく観察し、不満を持つ女性がいなか気を配る必要があるだろう。

もう一点、今回のプログラムが貯蓄を軸としている事から、貯蓄する事が難しい最貧困層の女性を取り込めないのではないかと危惧している。特にこれまでにできたグループの貯蓄額が1月1,000リエルや週700リエルであるため、月にせいぜい100~200リエルの貯蓄しかできないような女性が「毎月100リエルの貯蓄をするグループを作りました」と言いにくい環境が出来上がってしまったかもしれない。この為、貯蓄額に決まりが無い事を繰り返し伝える必要がある。また、貯蓄なしでも参加できる活動を準備するつもりである。具体的には、家庭菜園トレーニングなどはグループ単位で行う予定であるが、このグループは「トレーニンググループ」として「貯蓄グループ」とは違う位置付けとすることにしている。

#### 4 現地の人々の反響・意見

\* 別添資料参照

##### 女性組合中間評価

実施日：12月11、12日

場所：プレイチャンボック村

評価参加者：プレイチャンボック村124世帯